

冬期の刺網による大型オオクチバスの捕獲状況

太田 豊三・上垣 雅史・二宮 浩司

1. 目的

オオクチバスの大型成魚を効率的に捕獲し、春期の再生産を抑制する「オオクチバス稚魚発生抑制事業」が平成 23 年度から実施されている。本研究では、冬期における南湖と北湖の代表的な 2 水域に定点を設け、目合いの異なる刺網による捕獲状況を調べ、大型オオクチバスの移動や効率的捕獲法の検討を行った。

2. 方法

(1)南湖における刺網調査

1)刺網：60mm、90mm、120mm の 3 目合で各 2 把 / 地点を、夕方に網入れ翌朝取り上げ。操業は湖南漁協組合員に依頼。

2)操業時期：1 月初めから 3 月末までの週 1 回を目途に計 11 回実施。

3)操業地点：自衛隊前～旧草津川河口、唐崎～葉山川河口、四ッ谷川河口～志那港北の各東西ライン上に西岸～中央～東岸の 3 地点を設定、週毎に東西ラインを変えて調査。

(2)北湖における刺網調査

1)刺網：75mm、85mm、100mm の 3 目合で各 2 把 / 地点を、夕方に仕掛け翌朝取り上げ。操業は海津漁協組合員に依頼。

2)調査時期：12 月初めから翌年 3 月末までの週 1 回を目途に計 12 回実施。

3)操業地点：操業者の捕獲実績・経験から海津港沖、東山根、百瀬港沖、海津大崎、二本松沖等、大量捕獲が期待された水域を設定。

(3)調査測定項目：操業日時、地点(湖水温・水深)別、刺網の目合い別に捕獲されたオオクチバスの体長、体重、性別、成熟度および胃内容物、眼隔長等、混獲される在来魚の種と尾数、重量。

3. 結果

南湖、北湖ともに時期や仕掛け場所により、大きい目合(75～120mm)で大型魚が効率的に捕獲できることを確認した。北湖では低水温期に急深部の駆け上がり(水深 20m 付近)で多く捕れる傾向があり、今後、さらに詳細に効率的に捕獲できる条件を検討する必要がある。

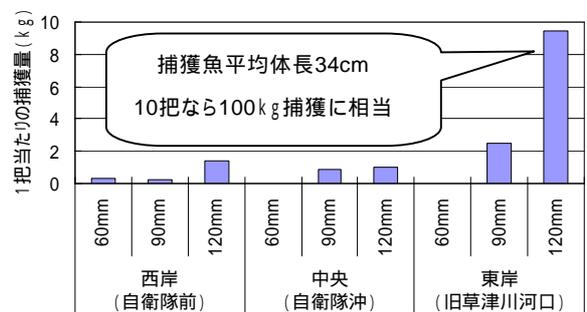


図1 南湖での刺網によるオオクチバスの捕獲例 (H24/2/13: 目合い 60,90,120mm、湖水温: 5.5)

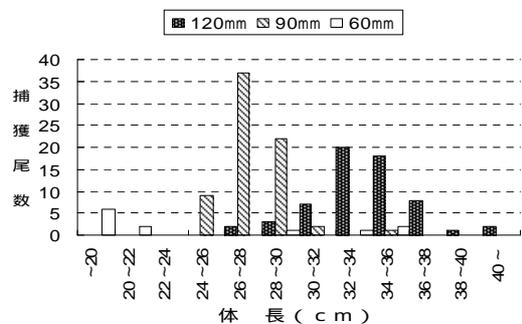


図2 南湖での目合い別刺網捕獲体長分布

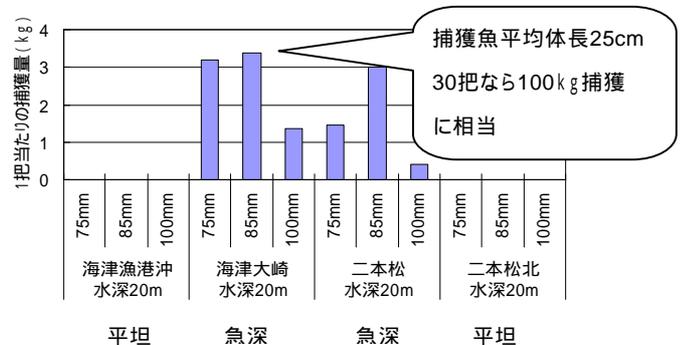


図3 北湖での刺網によるオオクチバスの捕獲例 (H24/2/14: 目合い 75,85,100mm、湖水温: 7.3)